

(経緯説明)

令和2年3月3日に予定しておりました「令和元年度 第2回 文化財保護委員会」は、新型コロナウイルスの道内感染者の増加により、委員の招集が難しくなり、書面にて協議事項の質疑応答を行い、委員長の承認を得た上で、委員会の議事録と同様に公開する事となりました。

## 令和元年 第2回恵庭市文化財保護委員会 資料対する 各委員からの質問・意見及び事務局よりの回答

(本来の恵庭市文化財保護委員会予定内容)

開催予定年月日： 令和2年3月3日午後1時30分

会 場 予 定 ： 恵庭市郷土資料館 研修室

出席予定者： 山田委員長、高橋副委員長、岩淵委員、那須委員、山口委員、土屋委員  
(事務局) 穂積教育長、竹内教育部長、中陳教育部次長、原田郷土資料館長  
大林資料館担当主査、長町埋蔵文化財担当主査、村本総務担当主査

### 1. 議 題

#### (1) 令和元年度主な事業報告及び経過報告について

A委員	(ページ1・2・3) 令和元年度 郷土資料館事業報告 資料館担当事業全般について 新規・継続の各事業の事業内容と参加人数から、小中学校の児童生徒を含めた幅広い年代が利用していることが分かりました。 事業内容による利用者数の増減は見受けられますが、資料館の社会教育施設としての役割が果たされていることが伝わってきました。 特にふるさと教育宅配事業については、小中学校との連携の下、子ども達への実物資料を介した郷土学習の機会提供として、今後も継続していただきたく思います。
事務局	4年目となる令和2年度も安全に配慮し、継続して実施してまいります。
B委員	(ページ1・3) 令和元年度 郷土資料館事業報告 個々の内容は分かりやすく記述されているが、事業計画書と構成・書式が異なるため(計画書は事業別、報告書は担当別)、対比しにくい。
事務局	次回より、構成・書式を統一いたします。
B委員	1. 展示事業、教育普及事業が精力的に推進されていることを評価する。 2. 資料収集、周知・刊行物事業等も計画通り実施されていると思うが(記述がない)、成果の概要(例えば収集内容・点数・進捗状況など)はどのようなのか。
事務局	別紙1を参照してください。

B委員	3. レファレンス件数は年間どの位か。主な内容は？ 文化的保護に関連する案件はあるか？
事務局	別紙1を参照してください。
A委員	(ページ4・5・6・7・8) カリンバ遺跡史跡等水文環境調査 史跡内の埋蔵文化財保存に欠かせない調査だと理解しています。 同資料から、地下水位、自然環境、季節・天候変化等様々な要因が保存状況を左右することを再認識しました。 今後も継続的なデータ集積とデータ分析が必要だと思います。
事務局	令和2年度も引き続き水文環境調査を行ってまいります。
B委員	(ページ4・6) 令和元年度 カリンバ遺跡史跡等水文環境調査業務 1. 水位が低下傾向にあるので、降水量・降雪量以外の要因がないか確認する意味からも、継続調査は必要と考える。
事務局	令和2年度も引き続き水文環境調査を行ってまいります。
B委員	2. 堰A, B, C及びボーリング1～4、ため池の位置(図のどれか)を確認したい。
事務局	別紙2「カリンバ水文位置図」のとおりです。ボーリング1～4はB-1～4です。 堰A, B, Cは薄い青字で表されています。 Aが図面中央の赤い四角内、Bがその上、Cが図面右上の赤い四角内です。
B委員	(ページ8) 令和元年度 カリンバ遺跡史跡排水溝改修工事 1. 工事完了後まだ数ヶ月であるが、工事の効果、環境変化は観察されているのか。
事務局	土のう部分で水が止まり、溢れた水が南側に流れ、掘削孔から旧カリンバ川に流れていることが確認できました。 現在、環境変化は確認できませんが、詳細な水位は今月に出される「水文環境調査報告書」で報告される予定です。
B委員	(ページ9～11) 令和元年度 埋蔵文化財の保護 1. 試掘、立会、事前協議、照会対応などの事業推進・成果を評価する。 2. 発掘金属製品の再保存処理は次年度以降も予定しているようだが、全体計画と進捗状況はどうなっているのか。

事務局 市内遺跡で出土した金属製品は500点以上があり、そのうち早急な保存処理や再処理が必要なものが100点以上あります。  
保存処理事業は令和元年から12年まで予定しており、年5～10点程度(毎年250万円前後)を処理する計画です。  
処理は緊急性の高い資料(崩壊や破損が著しい)や重要な資料(アイヌ墓の刀や鉄鍋等)から行います。  
現在、令和元年度の刀5点が終了し、令和2年度は刀・鉄鍋7点を実施します。令和2年3月現在の進捗率は全体の5%程度です。

## (2) 令和2年度事業計画について

A委員 (ページ12・13)  
令和2年度 郷土資料館事業計画(案)  
新年度事業は例年になく特徴の多い内容が多いと思いました。  
中でも、展示事業「西島松5遺跡の里帰り展」、「2020国指定重要文化財」、「市になったころの恵庭展」は興味深く、恵庭の文化の奥深さを知る契機となるのではないかと期待しています。  
なお、教養普及事業の一部事業実施に資料館ボランティアとの共催事業がありますが、今後も学芸員の指導の下、資料館を支える存在として活動していただければ、と思います。

事務局 西島松5遺跡は、縄文後期の墓から多数の漆製品、擦文前期の墓から多数の金属製品が出土したひじょうに重要な遺跡で、いずれも恵庭を代表する遺物です。  
これらを展示して、市民の皆様が当時の恵庭は北海道の拠点的作用を果たしていたことを知っていただきたいと考えております。  
「市になったころの恵庭展」では、市制施行50周年を迎える今年にちなみ、昭和45年前後の恵庭の様子を市民より寄贈を受けた資料の他、写真や映像を活用してご紹介します。  
また、一昨年、独立した1団体としてスタートした郷土資料館ボランティアの会は、内容の幅が広がり、多くの事業で活動していただいております。  
今後は資料整理や展示解説の分野の事業も計画したいと考えております。

B委員 (ページ12・13)  
1. 事業計画(案)について、計画を支持、期待する。  
2. 国庫補助事業のうち史跡整備事業だけが資料館事業計画(表)に記載されている。その理由は？

事務局 市内遺跡発掘調査等事業は、特に発掘調査において年度ごとによる事業の増減が著しいことから、資料館事業計画(表)に記載しておりませんでした。  
今後は市内遺跡発掘調査等事業等も資料館事業計画(表)に掲載し、その上で別途記載することといたします。

A委員 (ページ15・16)  
令和2～4年度 重要考古資料リスト化事業  
リスト化で西島松5遺跡の考古学的な立ち位置が示される気がします。  
同遺跡のリスト化後の成り行きへの関心と共に、恵庭の他の埋蔵文化財との関わりも注視できれば、と思います。

B委員	<p>(ページ17-19)</p> <p>令和2～4年度 アイヌ政策推進交付金事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マイスター育成事業の数値目標は18名と理解して良いか。その後の地域への展開策をどう想定しているか。</li> <li>2. R4年度の地域・産業振興事業が検討中とあるが、何を検討しているのか。</li> </ol>
事務局	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アイヌ文化マスター事業の数値目標は「参加者が毎年6名」で設定しております。 ご指摘のとおり3年間での数値目標は18名となります。 地域への展開策としては、ニュージーランド派遣後の2月に資料館で報告会を予定しております。 また、4月以降の報告会開催に向けて検討します。</li> <li>2. 令和4年度の地域・産業振興事業は市の企画課及び財政課と協議済みで大枠の理解を得ていますが、事業実施の確定は令和2年度の協議後となります。 そのため、場合によっては事業が実施できない、ないしは縮小する可能性もあることから「検討中」として記載しています。</li> </ol>
(3)その他	
C委員	<p>全般</p> <p>少ない予算で頑張っているなどと思います。</p>